

「地域社会と税金」

福岡市立片江中学校

大村 梨紗

私の学校では、ボランティア隊というものがあります。ボランティア隊とは、学校や地域のために役に立ちたいと考えている人が集まって作られる組織で仲間と協力しながら、学校や地域など、学校に関わっている方々のために奉仕することです。私は、今年で中学校を卒業するので恩返しがしたいと思い、初めてボランティア隊の会員になりました。そこで、出会ったのが地域カフェです。地域カフェというのは、ご年配の方々が公民館に歌や講演会などを聞きにきます。そこで飲みものやお菓子を食べ、交流するというものです。参加して、ご年配の方々と交流することができ、とても有意義なひとときを過ごしました。

一方で、どのようにしてこの会が開かれているのかが気になり、公民館の館長に質問しました。すると、市の税金で行われていると返事が返ってきました。私は気になつたので家に帰って調べてみました。市のホームページの中に「認知症カフェ」とあり、その中に私の参加したものがありました。館長さんの話によると福岡市からの補助ができているとのことでした。認知症ではない方も、とても楽しそうに他のご年配の方々と交流されていました。お菓子などを美味しそうに召し上がっている様子を見てとても微笑ましい気持ちになりました。私は「このような場があるのは税金のおかげなんだ」と思い、他にもどのようなところで身近に使われているのかが気になつたので、市のホームページで調べてみることにしました。要約すると、市が行っている講演会などのイベントは、一般的には税金が使われていて、地方自治体は、住民や地域社会のために様々なサービスを提供する責任をもっており、その中には教育・文化活動も含まれるそうです。私たちが払った税金は巡り巡って、私が住んでいる地域にも還元されているんだと嬉しく思いました。当たり前のことが身近で税金は多々使われていますよね。最近では、増税がきついなどという声も聞こえますが、私はそのようには思いません。増税する分、様々なところで私たちの生活を豊かにしていると思うからです。

税金は、社会の維持、発展に不可欠な財源です。私たちが利用する公共サービスやインフラ、教育、医療施設は税金で支えられています。また、災害時の復興や福祉事業も資金を必要としています。一方で、「誰が」「何に」「いくら」貢献しているのか透明性が求められます。結論としては、市民、県民、国民として私たち自身が「地域に還元する姿勢」そして「互恵関係」を大事にしていくことが大切だと思います。